第41回運営推進会議

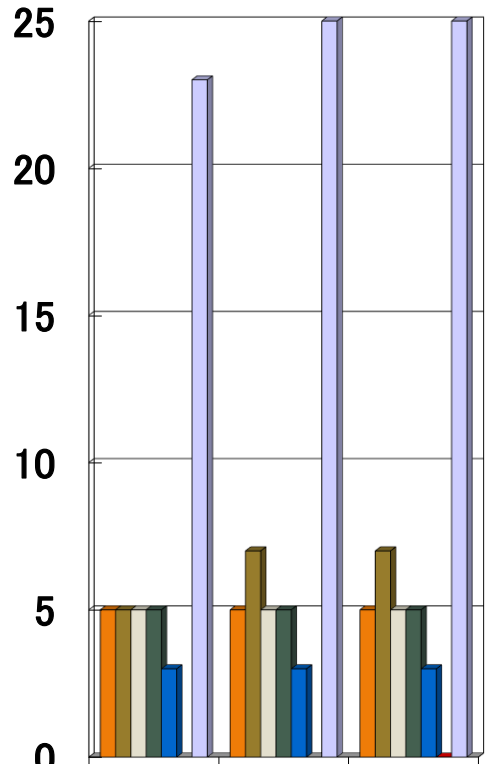
看護小規模多機能型居宅介護事業所るぴなす

令和元年7月30日

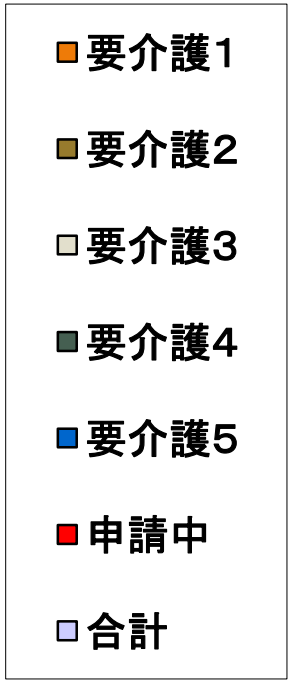
第41回運営推進会議

- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者紹介
- 活動報告
- その他質疑応答・要望等

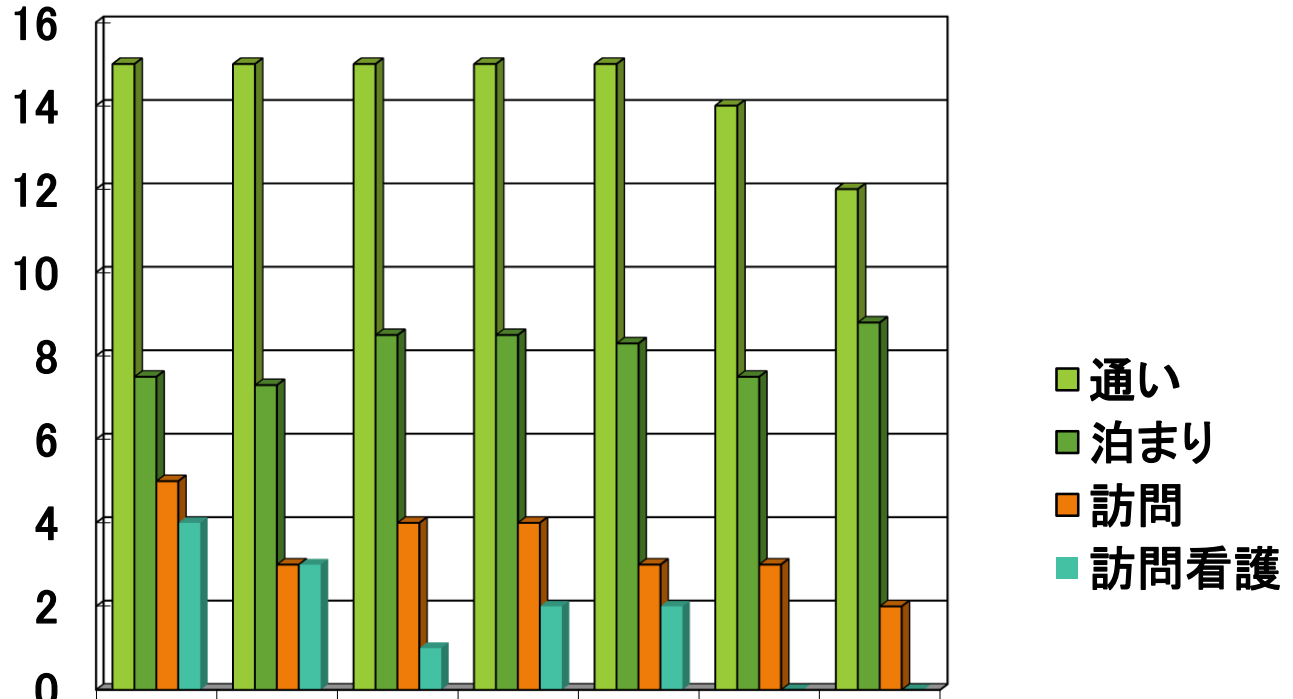
登録利用者数
令和元年5月～令和元年7月



	5月	6月	7月
要介護1	5	5	5
要介護2	5	7	7
要介護3	5	5	5
要介護4	5	5	5
要介護5	3	3	3
申請中			0
合計	23	25	25



令和元年7月　曜日別利用者数



	月	火	水	木	金	土	日
通い	15	15	15	15	15	14	12
泊まり	7.5	7.3	8.5	8.5	8.3	7.5	8.8
訪問	5	3	4	4	3	3	2
訪問看護	4	3	1	2	2	0	0

新規ご利用者

Ｈ・Ｙ様　女性　79歳　要介護2　夫，次女家族と5人暮らし

卵巣がん　再発や転移を繰り返し、外来や入院で治療してきた。

5/30退院し、るぴなすを利用しながら在宅で療養中。
週1回の訪問看護と週5回訪問で食事を届け服薬確認、通いで入浴、
ご家族不在時に泊まりを利用している。。

新規ご利用者

Ｈ・Ｒ様　男性　75歳　要介護1　長男家族と4人暮らし

前頭側頭型認知症の初期

認知症の診断が出た事で、車の運転を家族が心配し、今後の事を考え利用された。
週1回通い、入浴しスーパーで買い物をして帰宅。

新規ご利用者

Ｎ・Ｙ様　男性　81歳　要介護2　妻，長男と3人暮らし

肝がん　糖尿病

自宅で療養していたが、妻からの暴言暴力により自宅に居れなくなり、6/25より緊急避難的に泊まりを利用している。

新規ご利用者

Ｎ・Ｉ様　女性　82歳　要介護2　夫，長男と3人暮らし

アルツハイマー型認知症

老人保健施設を退所し6/14から、るぴなすの通いや訪問を利用しながら自宅で生活する予定だったが、通いも訪問も難しい状態。

今後の予定

◆　るぴなす祭り　　9月14日(土)14:30～

◆　お誕生会

第４０回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るぴなす

開催日時：令和元年7月30日(火)　18：00～
出席者：自治会副会長・寺尾様，民生委員・大嶋様，地域包括支援センター山潟・小石様
　　看護小規模多機能ご家族・高橋様，本間様，和田様，長井様
　　法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，看護小規模管理者・小林

１　斎藤先生より
　この６月に登録定員の25名に達しました。
地域はコミュニティ、家がむらがって村、町はそこに道区ができて町になった。最少単位は家、つながりを作り直そうとしている、今は隣がわからない。医療・介護を受ける人も積極的に参加していく。トータルで見る小規模多機能、看護小規模多機能は見直されてきたと思う。どんな病気や認知症があってもこの地域で暮らせる、この会議も大事です。

２、ご利用者現況報告

〇登録利用者数

〇曜日別利用者数

　登録定員25名のうち、通いは15名まで，泊まりは9名までなので、訪問や電話をして自宅で過ごして頂けるようお願いし調整している。

３　新規ご利用者紹介
　４名
　看護小規模多機能の必要性が、ようやく病院やケアマネジャーに理解されてきたように思う。

４、活動報告
〇行事，日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告
・日頃の様子･･･新潟医療福祉カレッジ、介護福祉士を取得する専門学校の学生によるボランティア活動。1年生5～6人、4グループが2週でコミュニケーション、レク
出し物。
縁側で爪切り。
いつもは入浴のみの利用の方も参加され違う環境で過ごして
頂いている
たたみもの，会話。男性が交じり、いい雰囲気で会話。
・るぴなすファーム･･･地域の方に植えて頂き、６月から野菜がたくさん収穫できている。
収穫したじゃが芋でポテトサラダを作り、お届けした。地域の方から見守られ、
メンテナンスもされている。

・夜の茶の間･･･3年経過。地域包括支援センター山潟の広報に。初めの頃は20名、今は30名を超え毎回盛り上がっている。第三金曜18:30～20:00。近所の方，様々な方が来られており、くじ引きで席を決めるが皆さん和やかに会話されている。

5　今後の予定

6、その他質疑応答・要望等

・父の兄弟は皆80歳代で一斉に施設に入ったり亡くなったり。親戚には頼れない。時代。コミュニティ、つながりは希薄、課題である。民生委員さんが心配して下さっている。

・がんで通院しているが元気でモルヒネを使わずに自宅で生活している方、訪問し配食しており、ご主人とお弁当を食べている方。肝がん末期で、自宅では寝たきりの生活だったが、今ご飯は食べれており元気になっている方。どちらの方も今は状態が良く、自宅と看護小規模を行ったり来たりし見守っている。入院の時代ではなく、地域に戻り悪くなったら入院。医療ケア必要になり求めがある。状態に合わせて訪問し関わり、信頼関係ができて通って、細かく合わせ調整できるので、複雑に重なっている方に対応でき、看護小規模多機能のニーズが増えていると思う。

・山潟圏域で虐待の疑いのケース。一緒に住んでいる息子，気持ち過剰で夫から妻に、など最近多い。元々の家族関係，生い立ちにも関係する。自分の事が自分でできているうちは良いができなくなりネグレクト，褥瘡，不衛生など。市にも報告し役所と相談しながら対応していく。

・誰も関わる家族がいない人に関わり、最後は握手して帰り30分で亡くなった。誰か来る人は安心だが。保証人の問題、病院も受け付けない。生活保護，身よりのない人は大変。
・認知症の違いについて。治る薬はない。サービスを使いながら一人で抱え込まずに。地域、コミュニティで言いやすい環境。茶の間も良いが移動方法がなく行けない人、茶の間の移動手段が問題。手押し車で行ける範囲なら良いが。誰か関わって支援する人がいるといい。
・一人で見るのはストレス。早いうちから話せるように。気が楽になる。相談は、大変になってからでなく、余裕を持って相談してもらいたい。当事者にならないと意識は変わらない。
・8050になっていたかも知れないが助けてもらった。
・ネットワークはいくつあっても良い。家族，親戚が少なく、関わりも少ない。上手に老いていくことは難しい。友人一人でなく、人間関係が大事。関わりのある人と情報交換して。公的支援だけでは足りず独自のネットワークつながり、趣味でも、友達付き合いを作っておくことが大事だと思い、始めている。

ありがとうございました(*^_^*)